

〔座談会〕

新島襄が出会った

人たち

オーテス・ケーリ

(大学文学部教授)

井上 勝也

(大学文学部教授)

北垣 宗治

(大学名誉教授)

高久 嶺之介

(大学人文科学研究所教授)

河野 仁昭

(社史資料室長)



塩田虎尾と新島七五三太

座談会の趣旨

河野 僭越ですが、本誌の編集委員ということで司会をさせていただきます。

ご承知のようにいま、新島永眠一〇〇年、生誕一五〇年を記念して事業や行事が進められておりますが、『同志社時報』もそれにタイアップしまして、第八十八号で永眠一〇〇周年の特集を組みました。この第九十一号もなんらかの特集にしたいということで、「新島襄が会った人たち」をメイン・テーマにしたわけです。

ことさら申し上げるまでもないことですが、新島は四十七年の生涯において、国内外のいろんな人に出会い、しかも敬愛され、信頼され、そして援助を受けます。それはラツキーだったという一言で片付けるわけにいかないにか、見えざる御手とか、人徳といつても十分に説得力をもつ説明にはならないと私は考えています。新島の何がそうあらしめたかという問題は、彼の生涯を考えますうえで極めて重要ですが、従来の新島研究ではあまりまともに課題にされなかったように思うのです。

そこで今日は、新島がどういう人物と、どういう出会をもったか、さまざまなケースがありそうに思われますので、なるべく広範囲にわたって、先生方がご存知のところをご紹介させていただきますようにお願いします。

塩田虎尾と福士卯之吉

河野 司会者がしゃべり過ぎると具合がわるいのですが、話は脱国から始めるのが順序かと思えますので、新島の脱国を援けた二人の男、塩田虎尾と福士卯之吉について最初にちよつと申し上げておきます。

塩田は新島が玉島へ快風丸で処女航海しましたとき乗りあわせた松山藩士です。彼はその船が北方航海に出ますとき、新島が乗船できるときの藩の上役に斡旋の労をとっただけでなく、出発の朝は、新島家まで迎えに来ています。そして箱館へ同じ船で参りまして、新島が脱国する夜、福士卯之吉が待っている築島のポーター商店へ赴くとき、塩田はあたたかも新島の主人のようなかつこうで、従者に装した新島を従えてポーター商店のすぐ近くまで送っています。夜道を外国人が住む築島へ行く新島が、人に怪しまれないようにする

ためです。(十四頁のカット参照)

玉島航海で塩田と乗り合わさなかったら、箱館へ行くことは、したがって脱国はありえなかったかもしれない。この二人の出会いが、私には非常に興味ぶかいです。

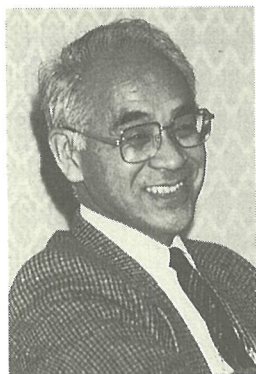
福士とのことはよく知られているので省略します。

セイヴォリーとテイラー

河野 新島が乗船したベルリン号のセイヴォリー船長について、ケーリ先生にうかがいたいですが、新島と外国人との出会いは、最初がニコライ、二人目がW・T・セイヴォリーでしょう。

ケーリ よく知られていることだけど、セイヴォリーは新島をよくかばっています。例の食器を間違つて海へ捨てちゃったときだって、ほかの人が「おまえ、船長が大事にしていた食器だから、えらいこと叱られるぞ」というようなことを言つたらしいけれど、新島が謝つたら、「そうか、そうか」ということで、別に叱つてもいいし。

北垣 食器にはちがいないけど、捨てたのはスプーンですよ。それも一本ですよ。



北垣宗治氏



井上勝也氏



オーテス・ケリー氏

ケリー スプーンも食器だから。(笑)

北垣 知らない人が聞いたら、お皿かなと思うじゃないですか。(笑)

ケリー ジャあ、スプーン(笑)。それからシャンハイへ箱館から二週間ほどで着いて、ベルリン号は長崎へ引き返す用ができた。けれども新島を乗せて行くと危いから、セイヴオリーは売りに出すわけです。

河野 売りに出すは変でしょう、人身売買みたいで……。 (笑)

ケリー 「この男を引き受けてくれ」とね、一説によると停泊している外国船を六十隻ぐらいまわってワイルド・ローヴァーまで行った。そしたらテイラーが「よし、わかった」ということで。さんざん新島のために苦労して、彼を助けてくれる人を探している。

河野 日本人を外国へ連れて行つたと、セイヴオリーは首になるでしょう。

ケリー 新島のことバレて、シャンハイで船長をおろされちゃって、一人の船客としてアメリカへ帰るわけだね。だけど彼は新島を恨みもしないで、ボストンの港へ会いに出掛けているんだ。

井上 一年後の一八六五(慶応元)年八月

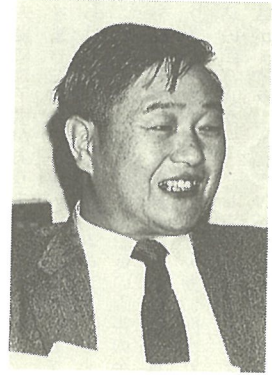
です。

河野 「無事に着いたか」と?

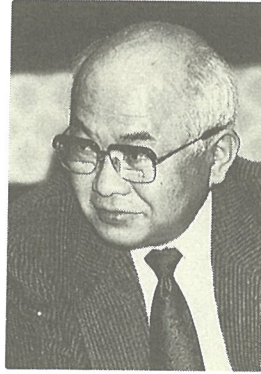
井上 そうです。

ケリー それからさらに二十年ほどのことだけれども、新島があるイギリスの婦人に、「セイヴオリーは無神論者だ」とか何とか語ったことが、本になってセイヴオリーに知れるわけです。それで新島は、「自分はそんなことをいったはずがない」と、その理由をいくつかあげて、セイヴオリーにまじめな回答をするわけです。「済まなかった」くらい言っておけばいいことなんだけれども、「私は箱館からシャンハイまでの二週間しかセイヴオリー船長といっしょではなかったし、英語だつてできなかったんだから、キリスト教徒であるかないか、どういうキリスト教徒か、そんなことわかるはずがない。だから、私がそんなこというはずがない」というふうなセイヴオリーにいうのです。二十年後にまじめにそんなことをいう新島の誠実さに、私はひかれるのです。

北垣 ケリー先生の論文(「新島襄と恩人セイヴオリー船長」、『同志社談叢』第四号)に即してもう少し詳しく言いますと、ミス・イザ



高久嶺之介氏



河野仁昭氏

ベラ・バードというイギリス人の女性が日本へやってきて、京都で新島に会っているいろんな話を聞くなどして日本旅行記を書いた。その中にセイヴォリーの信仰の問題が出ていたのをセイヴォリーが読んだので、新島が弁明の手紙を送ったということでしょう。

ケリー そういふことです、三つ理由をあ

げましてね。そんなことまでしなくてもいいのに、まじめというか、義理固いというか。河野 ケリー先生、テイラー船長についてはどうですか。

ケリー この人も新島に対してすごく親切で、いろんなことを教えてやったり……。ほぼ一年間おなじ船の中で暮らして。新島も、だから非常に親しみを感じて。

井上 テイラーが新島より、十四歳年長です。だから兄貴のように新島は慕っています。テイラーも航海術を実地に教えるとか、いっしょに船の位置を観測するといったことをやって、非常に面倒をみますね。

ケリー だからテイラーには敬服しているけれども、家族に対してはキリスト教にもっと熱心であってほしいと新島はいったりして。

北垣 テイラーがボストンの波止場で事故死したとき、その家族は、テイラーの魂が天国に行くんだということを信じているふうには、お悔みに駆けつけた新島には感じられなかった。だから彼は、テイラー家は悔い改めるべきであるといった手紙を書いて、そのコピーをミス・ヒドゥンに送っているのです。

井上 テイラー船長は一八六九（明治二）年十二月十一日に東ボストンの埠頭で、船と突堤にはさまれて事故死しますね。その知らせの電報をもらって、新島は肉親が亡くなったような悲しみと驚きをもって駆けつけた、と私は想像するのです。

河野 新島はそのころアーモスト・カレッジに在学中ですね。

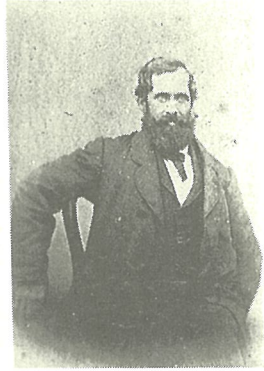
井上 そう、だからそこから……。テイラー夫妻の家は東ボストンにあつたので、そこへ。

ケリー 新島は実に義理固いというか。これはキリスト教はもちろんかわっているだろうけど、武士道的なものがあるという感じがしますね。

河野 そういう新島にとつて、テイラー家の人たちの死者への思いは、あまりキリスト教的ではないと……。

北垣 そうだったようです。私の想像ですが、テイラー家は新島がハーディー家やシリヤ家、ヒドゥン家で感じたものところがつていた。だからテイラー家のために非常に心配するのです。

河野 でも夏休みなど、チャタムのテイラ



W. T. セイヴォーリ

一家へ遊びに行つてはひと夏、家族と過ごしていますね。テイラーの死という事件に会うまでは、家族の信仰の問題をあまり意識していませんでしたね。

井上 新島が一八六六年、七年、八年の三年間、チャタムのテイラー家で夏休みを過ごしたのは、テイラー家が新島を温かく受け入れてくれたからです。また当時、テイラー夫妻には子供がありませんでしたから、新島をまるで自分の子供のように受け入れているわけです。現在、チャタムのヒストリカル・ソサエティに、テイラー船長の両親の金婚式を祝つてのテイラー家の人たちの組写真があります。その中にテイラー夫妻に囲まれて新島の顔写真が写っている。明らかにこれは新島がテイラー家に溶け込んでおり、また、テ



H. S. テイラー

イラー夫妻から家族同様に扱われていたいい証拠だと思うのです。

テイラー船長はじめ、テイラー家はバプテリストのようだけれども、やはり当時のニューイングランドの人たちが、民族を越えてキリスト者を受け入れる、いわば同朋意識というものを感じるのです。テイラー船長に限らず、セイヴォーリも、もちろんハーディー夫妻もそうで、新島がニューイングランドで出会ったキリスト者の多くがそうです。民族は違ふ、しかし、同じキリスト者なんだ、というところがあつて、新島を暖かく包みこみ、また、彼のために一肌も二肌も脱いでくれる。

河野 なるほどね、そういう解釈もある。

ニューイングランドの人たち

河野 解釈はともかくとして、北垣先生、新島の九年間のニューイングランド生活で、出会った主な人物をあげていただくとすると……。

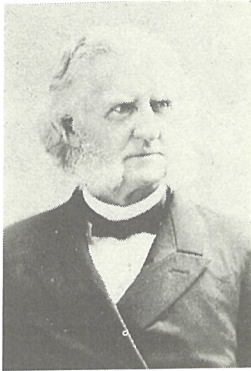
北垣 日本へやってきて、新島の同労者として働いたデイヴィスなど宣教師たちを除いて、私は十五名あげたいと思うのです。ただし、ハーディー夫妻、シーリー教授夫妻、ミス・ヒドゥン姉弟、プリント夫妻などは、それぞれ一人として数えることにしていますが。

河野 一組というべきか。

北垣 そうですね。以上で四人というか、四組。こういった人たちをまずあげなくてはならないでしょう。その他に、アームストロング同室になったW・J・ホランド、アンドロヴアー神学校のE・A・パーク教授。

河野 ホランドと新島の関係は北垣先生の論文（北垣編『新島襄の世界』所収）で初めて知りましたが、パークと新島の関係は未開拓の問題の一つですね。

北垣 この人が新島をどう見たかといううなことは、今まで調べられていません。し



アルフィーアス・ハーディー

かし、この人は、たとえば新島の最初の伝記とも言われるものを書いたミス・マッキーンが、四十九歳で死んだときに、彼女の追悼式で、ミス・マッキーンに対する追悼の言葉を述べています。彼は神学校の看板教授でした。アンドーヴァーというのは、たいへん知的な社会だったのです。ミス・マッキーンも新島が出会った大事な一人に数えるべきでしょうね。

アーモストの先生の中ではシーリーの他に、エドワード・ヒッチコック。ヒッチコック総長の息子で、ケリー先生に教えられたところでは、全アメリカで最初に体育を大学のカリキュラムの中で教えるようになったときのアーモスト大学の教授です。生理学の先生でもあります。新島は体が弱かったですから、

このヒッチコックにいろいろと世話になっていきます。たとえば不眠に悩まされている新島にフット・パース、足浴ですね、足だけをお湯につけるやり方らしいです。そういうことを教えている。

河野 ききめがあつたのかしら？

北垣 「多少はいい」と新島は書いています(笑)。それから、ノーサンプトンに聾啞学校があつたそうで、その聾啞学校にシーリーとヒッチコックの二人で新島を案内したりしております。田中と一緒に行ったときのことです。

河野 岩倉全権使節団の田中不二麿ですか。

北垣 はい。日本から来ている新島裏に、日本にないものを一つでも多く見せておこう



スーザン・ハーディー

という気持ちだが、ヒッチコックにはたいへんあつたと思いますね。このヒッチコックの人となりについては、ホランドの手紙にかなり詳しく書かれていて、実にいい先生であるということがわかります。ホランドもヒッチコックに何だか推薦状を書いてもらつたりします。彼はヒッチコックの生理学の時間には、骸骨とか骨を机の上に並べる手伝いをしたりして喜ばれたりしているのですけれども、新島裏はそこまで英語ができなかった。

ケリー シーリーとヒッチコックは日本まで来ているでしょう。

北垣 シーリーは来ているけど、ヒッチコックのことはよく知りません。

ケリー ヒッチコックと一緒に来ているのです。

北垣 一緒ですか。それは知りませんでした。

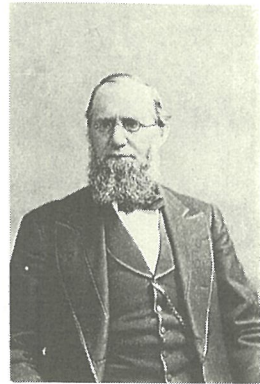
ケリー たしかそうです。新島の紹介ももらっているでしょうけれど、また新島もそういったことを書いているはずですよ。

北垣 それからもう一人、ジョシユア・モンゴメリ・シアーズをあげたいのです。お父さんがボストンで不動産の仕事をしていて、



M. E. ヒドゥン

ボストンで最もお金持ちであったと言われる人です。そのお父さんが死んだとき、息子のシアーズはまだ二歳と二カ月だったので、友人のハーディー夫妻が育てることになったわけです。シアーズは最初、新島と同じフイリツプス・アカデミーで勉強していきまして、新島の書いている手紙にMというイニシャルで出てきますけれども、ケーリ先生のフットノートによると、これはモンゴメリのMだということですが。彼は新島に対してハーディーが非常によくしていることを知っていましたから、彼もできることはしたいという気があったのです。新島が田中不二磨を案内してベルリンにいったとき偶然シアーズに出会って、ちょうどクリスマスだったので、二人で非常にいいクリスマスをお過ごししています。新島に



J. H. シーリー

靴をプレゼントしたりしてもらっているのです。
河野 新島に自分の家をつくるようにと、二度にわたって金を送ってきた人です。

北垣 そうです、二百ポンド寄附している。新島のためには非常に気を使っていたように思います。ですから私は、新島が最後まで病気を治してアメリカへ大学設立募金に行こうとしたのは、こういう友人がアメリカにいた、少なくともシアーズを寄附を頼む一人として考えていたと思うのです。

河野 考えられることですね。

北垣 それからウイリアム・スミス・クラークを挙げたいと思います。クラークはご承知のように、札幌に来たあと、同志社を訪問して建物にそれぞれに少しづつ寄附していった。新島がクラークのケミストリーの授業に

出ていたかどうかは、新島側の証拠がないのでなんともいえませんが。

河野 新島のことを、クラークは「マイ・ボーイ」といったとか。

北垣 そのことも、いまのところ裏付けるものがないから……。

あとはピーター・パーカーです。彼はご承知のように、ラットランドでのアメリカン・ボードの集会で、新島のアピールにこたえて最初に「千ドル」と言った人です。なぜピーター・パーカーがあのととき、最初に「千ドル」と声高らかに言うことができたか調べました。それにはいろいろ前史があるわけですが、時間の関係で略します。

もう一人だけつけ加えさせてください。それはエドワード・グリフィン・ポーターという人です。新島の伝記にはポーターが三人出てきます。箱館のポーターと、このポーターと、イエール大学の総長であったノア・ポーターです。私がいま言っているのはエドワード・グリフィン・ポーターで、この人はフイリツプス・アカデミーを出て、それからアンダーヴァー神学校も出ている人で、牧師さんで、レキシントン・ハンコック・チャーチの

牧師になった人です。彼は一八七二年の五月に、新島が船で田中不二麿と一緒に大西洋を渡ったときに、たまたま同じ船に乗っていた。新島はそのとき、他の船客といっしょにポーターなど牧師や神学博士までが夕食のときアルコールを飲んでいるのを非常に批判的に見ていて、「私は船の水が腐るまでああいうことはしない」(笑)、そういつている。

ところが、このポーターは新島をのちに非常に尊敬しまして、たとえばマサチューセッツ州リンカーンのまちの建設二百年祭だったかに招かれて講演をしておりますが、そのリンカーンの大事な家柄を幾つか紹介するわけです。そのうちの一つがフリンツ家なのです。そしてフリンツにメンションしたついでに、フリンツ家のこの人はジョゼフ・ニイジマをこういう形で助けたのだということ、はつきりその講演の中で言ってますから、その点でも大事ですし、もう一つは新島裏が牧師の任職を受けてから最初の説教をやらせてもらったのは、実はレキシントンのこのポーターの教会だったのです。さらにいうと、彼はマサチューセツ・ヒストリカル・ソサエティの会長を務めた人です。初代会長だったかと

思います。

河野 これで何人あげていただいたかわからなくなりましたが(笑)、ケリー先生のお祖父さんも新島と出会いをもった一人ですね。

ケリー 新島がアームストにいたのが一八六七年から一八七〇年、祖父は七二年卒業だから二年ほど重なるわけね。あちこちでしゃべってきたことだけど、ケリー家に伝わっている話では、アームストの町はずれに、そのころは葡萄畑があつて、夜、寮にいる学生たちが勉強に疲れたりすると、それを盗みに行くわけ。学生にあらされて困るものだから、百姓はピッチフォークなどを持つて番をしているわけですよ。ある晩、祖父も新島も他の学生たちといっしょに葡萄畑をあらしに行ったら百姓に見つかっちゃって、他の連中はうまく逃げたのに、祖父も新島もあまり大きいほうじゃなかったからうまく逃げられなくて、手を引つ張つたり、尻を押し上げたりして畑の囲いをなんとか越えて、やつとの思いで逃げたと……。 (笑)

河野 新島が葡萄を盗みに行つたんですか。

ケリー 私の家にはそういう話が伝わって

いる。

井上 それが本当なら、新島像をちよつと変えなくちゃいけない。(笑)

ケリー そういうこともあつての学生時代なんです。

河野 それにしてもねえ。(笑)

北垣 その話はケリー先生が時々なされる話だけれども、同志社では誰も信じる者がいないんです。(笑)

河野 井上先生はニューイングランドで新島が出会いをもった人物の中で、この人は大事と思つていらつしやるのは誰ですか。

井上 いま北垣先生が名前を挙げられて説明をなさいませんでした、やっぱリミス・ヒドゥンです。彼女はピューリタンとしての生き方を新島に教えた人だと思ひます。彼女は彼がフリップス・アカデミーに編入学をして、一年十月ホームステイをさせていただいた家の女あるじで、ニューイングランドという江戸とは全く異質の世界に飛び込んでいった新島が、その地に適応できたのは、ヒドゥンの導きがあつたからだと思います。また、ヒドゥンがハーディーにあてた手紙などを読んでみますと、ヒドゥンは新島の本質を

つかんでいるなと思うし、新島もヒドゥン家にうまく溶け込んでいる。ヒドゥン家にいたフリンツ夫妻も、新島を暖かく包み込んでくれています。

河野 新島をヒドゥンに紹介し、ホームステイを頼んでくれたのはハーディー夫妻ですが、ハーディーはさすがに人を見る目もつているという気がしますね。

井上 全くそうです。ヒドゥンはアボット・アカデミーの卒業生であり、比較的高い教養、学歴もついています。そして、彼女が通っていたファースト・コングリゲーション・チャーチに新島を日曜日に来ていて、そこで先ほど北垣先生がいわれたマッキーンとの出会いがあるわけで、私は最初にやはりヒドゥン家、とりわけヒドゥンが新島に与えたピュリタンとしての生き方の感化は大きなものがあると思うのです。

シーリーとハーディー

河野 その他の人物はいかがでしょう。

井上 アーモスト・カレッジのシーリー教授夫妻。何といってもいちばん大きな、学問的、人格的、あるいはキリスト者としての、

あるいは大学教授としての、あるいは新島も将来、校長になるわけですから、そういう学校経営者としての、あらゆる角度からシーリー教授、あるいは奥さんからの影響というのには実に大きいと、私は思いますね。

河野 新島はすごく可愛がられますね、ハーディーに頼まれた学生だからでしょうか。

ケーリ ハーディーはきっと新島のことを頼んだでしょう、アーモスト・カレッジの理事をしていることでもあるし。シーリーはアーモストの中心的な、非常に信頼されている教授だったから。

ふと思いつくだけでも、新島がアンドーヴァー神学校時代に、田中不二麿を連れてアーモストへ来てホテルへ泊った。するとシーリーがやってきて、「なんでホテルなんか泊るんだ、うちへ来い」といって、自分の家へ連れて帰るんだ。そういうところにシーリーと新島の関係が見える気がするんだが、あれはシーリーが日本から帰ってからだっただか。

井上 シーリーが日本へ来たのは明治五年、インドへ行く途中で寄ったのです。だからインドから帰ってからではなくて、その前

ですな。

河野 新島が田中とアーモストへ行くのは、明治五年四月下旬ですね。

ケーリ じゃあ、シーリーはそれから日本へ行ったのかな。

北垣 先ほどの話だけど、私はシーリーは新島にだけたいへん親切にしたというわけではないだろうと思っただけです。その傍証として、ホルランドの父親、母親あての手紙の中に、アーモストの先生の中ではシーリーがピカ一で、非常に尊敬していると書かれています。その授業は全身全霊総動員させるような授業だとか、ウォーキング・デイクシヨナリー、生き字引だというふうに書いています。ただ単に知識だけじゃなくって、道徳性というのを非常に強調するし、信仰の面でもすごいと書いてます。ホルランドのように優秀で非常に感受性の強かった学生にそのように訴えたということ。新島襄はそこまで英語はできない、それでもシーリーには人格的に非常に惹かれていた。またこの人こそ指導者だなんていうふうには新島は受け取っていませんから、やっぱり偉大な教育家であつたと思えますね。

井上 内村鑑三が『余は如何にして基督信徒となりし乎』で、全く同じようなことを書いておりますね。シーリーは当時、総長ですが、「シーリー総長をひと目見るために自分は毎日礼拝に出た」というふうな。

ケーリ 後から拜んでいたという感じを受けますな、内村は。(笑)

北垣 それのみならず、内村にいちばん厳しい忠告をしているわけですよ。「内村君、君の欠点は木を植えて、どこまで育ったかそれを抜いて、根の長さを毎日測るのと同じことをやっている」と。これは当時の内村に非常に適切な表現です。

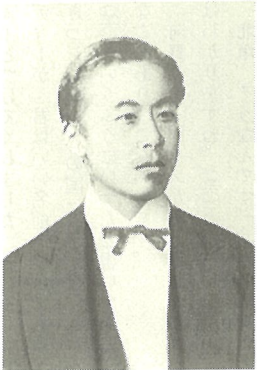
河野 ハーディー夫妻ですが、なぜあんなに新島に親切だったか、その点はどうですか。
井上 私は、一年間航海をともしたテイ



森有礼

ラー船長から、新島はこういう人間だということ最初の情報を得ていたことによると思いますね。ハーディーはテイラーを非常に信頼しておりましたから、それはストレートに新島についての情報として、ハーディーの頭の中に入ったと思います。

それから二つ目は新島がいわゆる「密航理由書」と呼ばれているものを、セーラーズホームに泊まり込んで、素朴な英語で書くわけですけれども、ハーディーはそれを読んで、この青年は信頼できるという印象をもったのでしょう。夫妻で新島に会って、その印象もテイラーが伝えたとおりでたんじやないか。だから新島も人を動かすものをもっており、ハーディーも人を見る目を持っていたといつていいでしょう。



田中不二麿

河野 この青年を育てて、日本伝道に当たらせたいという気持が、あったのでしょうか。
井上 心のどこかにあったでしょうね。
北垣 初対面のときからかどうかはわかりませんが。

ケーリ フットノートになるかわかりませんけど、ひとつつけ加えたいのは、同志社にもやってきたひ孫さんのゲルストン・ハーディー。この人が祖父から聞いた話しだと言っていて、新島が苦勞してセーラーズホームで書いた「密航理由書」をスーザン・ハーディー（ミセス・ハーディー）が読んで非常に感激した。夫のアルフィアス・ハーディーはいろいろなことをやっているから家へ帰って来ても見なさない書類があって、新島の「理由書」は読む間がない。その上へ別の書類をだんだんのせていく。するとミセスが、ハーディーの留守に新島が書いたものを一番上へ置いておく。

河野 ハーディーが気付かすいように？
ケーリ そう。それである日とうとうハーディーが読んだと……。このミセスの役割は大きかったと思うんですよ、どこにも書いてないことだけ。そして母親がわりというか、

彼女がハーディー家で新島係のようなことをやることになるんだね。

河野 新島には母性本能に訴えるものがあったのかなア。(笑)

北垣 笑い話じゃなくて、私は新島襄にはそういう母性本能に訴える非常にいいポイントがあったと思うのです。それが証拠にいまケリーさんがおっしゃったようなミセズ・ハーディー。それから井上先生が詳しく研究したメアリー・E・ヒドゥン(井上「新島襄一人と思想」)。ミセズ・プリントもある程度そうかもしれないが、さらに言うともミセズ・シーリーです。

ケリー お姉さんが四人もいて、そういう家庭で育ったということを忘れるといけないのじゃないかな。ほくにも姉が三人いるからわかるんだけど。

河野 なるほど、いままで気がきませんでした。伝記でもふれているものがないですね。

北垣 ケリー先生が指摘された問題に関連してですが、たとえばデイヴィスの『新島襄の生涯』の中に、ハーディー夫妻がボストンの波止場まで新島に会いに来て、新島に名前を尋ねた。すると新島は、「テイラー船長がジ

ョーとつけてくれました」と。そしたらハーディーが「君はいい名前をつけてもらった。きつと神様がこの国に君を遣わしたんだ」(笑)というふうにいって書いてある。そんなことありっこないです。

河野 デイヴィスがそう書きたかった気持はわかりますね。(笑)

北垣 そうなんです。しかし事実だと読者は信じますからね。それから『ロビンソン・クルーソー』だって、デイヴィスは新島は古本屋で見付けたと書いている。新島のイメージにはびつたりだけれども、新島自身はそんなことも書いていない。デイヴィスが書いた伝記には非常にいいところがあるので、そうした面もあつて困るのです。

岩倉全権使節団との出会い

河野 内村鑑三とかかわりあいたか、まだまだ興味ぶかい問題がありそうですが、岩倉使節団と新島の出会いに移らせていただきます。この一行の中には後に文部省とか教育政策で重要な役割を果たす人物がいますので、まず井上先生からどうぞ。

井上 使節団の話となると、やはり森有礼

小弁務使のことに少しふれておかなかないかんと思うのですが、森は新島が密航を企てた一年後に、薩摩藩の留学生としてイギリスに留学し、その後、アメリカに渡って、明治元年に帰国します。そして、明治三年の暮れから、いまで言う駐米公使になってワシントンに赴きまして、一八七二(明治四)年三月に初めて新島とボストンで会います。森は新島より四歳年下ですが、新島は脱国者ですから、日本の外交官である森にいちもくおかげを得なかつただろうと思うのです。

河野 そうですよ。

井上 ところが「ライフ・アンド・レターズ」などを読んでみると、森は新島に、日本政府に請願をすれば、パスポートも交付してもらえろしというような話を具体的に進めておられますし、初対面にしてはかなり突っ込んだところまでいろんな話をしてるなという印象をもっております。

河野 森のほうがちろろ気を使っている。

井上 それから二カ月ほど後の明治四年五月、アンドーヴァーにいた新島は森に招かれてアーモストに行くわけです。ウィリアム・スミス・クラークが学長であるマサチューセ

ツツ農科大学へ、森は内藤という学生を送り込みたいので、その斡旋を新島に求めているというふうには私は受け取っているわけです。ここでもまた、森と新島はいろんな話合いをしていることが、プリント夫人あての手紙でわかります。たとえば、森が新島を非常に紳士的に取り扱ってくれたとか、あるいは新島がアンドーヴァーからの往復の汽車賃やら、宿泊費一切を出してくれたとか、あるいは森が日本でアメリカ式の学校をつくりたいと考えていて、自分に、すなわち新島に「テイク・チャージ・オブ」という言い方をしますから、要するに、そういう学校をつくったときに、世話してくれませんかと解釈できるような話を、アモストのホテルに泊らせているわけですね。



木戸孝丸

北垣 「テイク・チャージ・オブ」というのは「新島に校長の仕事をさせるから」という意味ですね。

井上 すると「帰国後、あなたが責任もつてその学校を運営してくれ」という意味ですか。

北垣 そうです。

井上 そういった二回目の出合いが功を奏したのでしょうか、森から日本政府に働きかけて、パスポートと留学免許状がこの年の八月にアンドーヴァーに送られてまいりますね。これによつて新島は長年脱国者、密航者としての精神的な負い目があったでしょうが、それが取り除かれただろうと思うのです。岩倉ミッシェンがワシントンに着くのはその翌年、一八七二（明治五）年二月末で、新島は三月七日にアンドーヴァーからワシントンに来て、翌八日に文部理事官の田中不二麿に会い、通訳の委嘱をうけることになりました。

河野 森の斡旋で留学免許状などを日本政府からもらっていないかと思ったら、岩倉ミッシェンに呼ばれても応じたかどうかはわかりなかつた私は思っています。新島はハーディーにすぐく気を使っているから、余計にね。

田中不二麿

井上 そのハーディー夫妻に、新島はワシントンから長文の手紙を頻繁に送ります。

河野 岩倉ミッシェンとの話合いの内容などを逐一報告するんですね。

井上 そうです。その手紙の一通で、森有礼から「ザ・ユニバーサル・エデュケーション・オブ・ジャパン」という論文を書くようもとめられたことが記されています。また三月十九日付の手紙では、田中と三時間にわたつて『ナショナル・エデュケーション』、『国民教育』についてディスカッションをやっています。日本の教育の責任者でもある田中と、アメリカの教育を高く評価している新島が教育論争をやつていて、彼はこんなことを田中に言ったということをハーディー夫妻に詳しく書いています。その論争は私、教育学をやっている者にとつては非常におもしろい。

ケーリ それは一対一ですね。

井上 そうです、ホテルで。田中も彼の教育観を詳しく述べています。森の斡旋で新島は田中の通訳、あるいは秘書のような役割を果たすわけですが、この一八七二年三月から

翌年の一月まで、約十一カ月間、アメリカ、ヨーロッパの八カ国を田中とともに教育施設などを視察して回ります。私は、一年近く寝食をともにすれば、互いに胸襟を開いて、何でも話し合える仲になつてゐるな、と思ひました。

『ライフ・アンド・レターズ』にはいろんなエピソードが出てまいりますけども、田中は帰国に先立つて、新島と一緒に連れて帰りたいたいと思ひ、しきりに新島を誘つてゐる。そのことが、ハーディー夫妻あての新島の手紙などうかがわれますが、田中にしてみれば、日本の近代化に必要な意味をもつ教育を自分が青写真を引き、具体化していく上で、新島に自分の片腕になつてほしい、そういう気持ちが強かつたのだと私は思ひます。

ケーリー 二、三年でいい、またアメリカに帰つてきて、最後の勉強をすればいいじゃないかとね。

井上 しかし、新島は断つたわけですね。

河野 ハーディーに手紙で、どうしたものと何と伺つていますね。そして、その上で断つた。

ケーリー そうです。

北垣 その返事がなかなかハーディーから来ないので、とうとういろいろ考えた末、断るので。

井上 田中はもう一度、新島を口説いて断られるのです。それは明治八年の八月で、田中は東京から京都にやつてきて、二晩旅館に泊まつて新島を口説いたんだけど、結局だめで、「君はヤソの奴隷だ」というふうな言葉を残して去つていったというおもしろい話が残つてゐます。私がおもしろく思うのは、その約二週間後に、今度は新島が同志社英学校設立の許可を得るために文部省の田中に会いに行つて、認可を頼むことです。二週間前に断られた田中は氣まずい思ひをしてゐたのじゃないかと思うのですけど、その田中に、キリスト教主義の学校設立について頼み込んでゐる。田中は当時、文部省のトップの地位にいましたからね。

河野 田中はいろいろな力になつてくれるし、ご馳走までしてくれてゐるでしょう。

井上 だからそのへんが面白いのです。

ケーリー そういふのは武士の情けというのですか。(笑)

井上 武士の情け以前に、私はやはり一年

近く寝食をともにした人間的な絆の強さだと思ふのですよ。

ケーリー でも、二週間前に断られてしまつた田中がそうしたの、新島を買つていたからじゃないですか。

井上 その点はあるでしょう。

河野 二人の年齢はどうなんでしょうか。

井上 田中が二歳年下です。

ケーリー ヨーロッパを二人で回つてゐるうちに、新島は日曜日、いつも休んで動かないのです。それで田中が先へ行つていて、新島は月曜日に追いかけるのですよ。それは何回かあるわけなんだ。そういう新島のキリスト教徒としての信念が、田中はよくわかつていて、信念を曲げない男だから、「ヤソの奴隷だ」といつて帰つた二週間後に新島が頼みに来たなら、「どうもしようがないや」という氣持が、田中にあつたと思うな。買つていたということもあるけど。

井上 新島は田中に出会つて、当初から田中をキリスト教に引き入れようとして、いろんな働きかけをやつてますね。サンデースクールに連れていこうとしたり。しかし、最終的には、田中は森と同じように、明治政府の



土倉庄三郎

高級官僚になつていくこともあつて、キリスト教的なものを表に出すことができなかつたでしょうけども、やはり新島のキリスト教を理解することのできた数少ない明治政府側の高級官僚じゃないでしょうか。それから先ほどの森有礼ですが、彼はイギリスに留学をし、アメリカに渡つて、キリスト教を当時としてはいちばん深く理解していた日本人の一人だと思います。しかし、明治政府の外交官になり、文部大臣になるといつたことで、キリスト教を少なくとも言葉で表には出せなかつたというふうに思います。ですから、そういった面から新島をかなり深く理解することのできた人ではないか。新島もまた森を理解することができたように思うのです。

河野 そのことは田中不二麿についてもい

えそうですね。

井上 そうです。新島はそうした人脈をうまく使っている。

木戸孝允

河野 その中には、岩倉使節団の副使だった木戸孝允も含まれますね。

井上 木戸という人は、明治維新の三傑の一人と言われるだけあつて、視野の広い人、先の読める人で、さらにハーディーと同様、木戸も初対面で新島を見抜いているなど思います。『木戸日記』を読みますと、木戸が新島を非常に高く評価していたことがわかるし、帰国後は新島のために、渡辺大阪府知事を幹旋したり、京都で榎村正直に新島が接近できたのも、木戸の幹旋があつたことです、彼らは同じ長州藩ですから。

新島もまた木戸のことを、ハーディー夫妻あての手紙の中で、「ジ・エイブレストマン・アマング・ゼム」といつている。要するに、岩倉ミッションの中で一番有能な人物だといふわけです。

明治十年五月に木戸が亡くなったことは、新島にとって非常な痛手だったと思います。

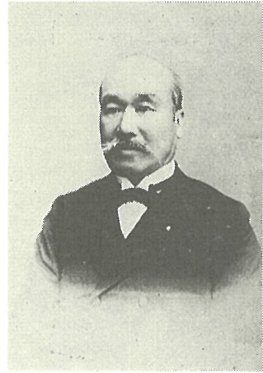
北垣 木戸は確かに新島を高く買つていて、「後來、頼むべきの人物なり」というふうに日記に書いていますね。

河野 高久先生、木戸とか岩倉ミッションのメンバーについて、なにかご意見がありませんか。

高久 私は今まで新島については不勉強でしたので、素人的な質問で恐縮なのですが、岩倉ミッションには木戸とか田中だけじゃなくて、その他にも有名な人物がいますね。岩倉具視がいちばんの中心ですし、大久保利通もいる。そういった、田中とか、木戸以外の人物との接触とか人物評というのは新島にはないのですか。

北垣 岩倉にも大久保にも接触した形跡は全くないですね。ですから新島裏は木戸を評して、岩倉ミッションの中で「ジ・エイブレストマン・アマング・ゼム」と言うけれども、その「ゼム」のそれぞれと会つているかどうかは、大いに疑問ではないでしょうか。

ケーリ 伊藤博文と大久保は、日本に飛んで帰らなきゃならなかつたでしょう。だから三カ月ぐらいワシントンの一から抜けている。新島もヨーロッパへ行つたりしているか



北垣国道

ら、うまく会った連中の中では木戸が一番、というふうにもとれんことはないと思うのですよ。

北垣 ただ、岩倉の秘書官というふうに出てくる田辺太一には会っておりません。田辺は新島が若いころ江戸でつき合っていた友人の一人なんです。それで非常になつかしかったと書いています。自分の脱国後の消息を田辺からたくさん聞いたことをハーディーあての手紙に書いています。

河野 岩倉使節団のメンバーは、当時の日本の第一級の人物ではないですか。

高久 そうなんです、帰国してからの動きは複雑です。西郷隆盛の征韓論のさ中に帰ってきたわけ。明治六年の政策で西郷と板垣退助がやめまして、それから半年後には木



山本寛馬

戸も参議をやめるのですが、もう一度参議にしよう、古沢滋、小室信夫、井上馨といった連中が中心になりまして、工作をいたしまして大阪会議というものをやる。その大阪会議でもう一度木戸と板垣を復帰させる。それによって元老院、あるいは大審院、そういうものをつくっていくという形になるわけです。しかし、木戸は体が弱いこともありまして、帰国後はどうも中心にはなり切れないという印象が強いです。ただ、伊藤博文も井上馨も木戸の配下ですので、木戸に怒られたら、あんまり文句が言えない。ただし、伊藤博文は関を越えて、大久保にむしろ親近感をもつようになっていきます。

木戸孝允という人をどう評価するかというのは非常に難しい。わりあいやすくやめたが

る人です。西郷と同じで。(笑)

河野 困った人やな。(笑)

高久 そういう意味では、大久保というのはそれなりの強靱な意志を持っていた人じゃないかと思えます。

北垣 木戸は森有礼を毛嫌いしていますね、軽佻浮薄の才子だと『日記』の中でめちやくちやに書いています。その森からも世話になり、木戸からも高く評価された新島襄は何者かということになるんじゃないかなという気がしています。森は、日本語を廃止して英語を国語にしろなんて考えをもつようになります。だから木戸に鋭く批判されたし軽蔑もされたと思うのです。

森が殺されたいちばんの理由は、キリスト教に肩を持ちすぎることだったのじゃないでしょうか。私は非常に不思議に思うのですが、森が暗殺されたときの新島の反応はどこにも記録されていないように思うのです。なぜでしょうね。

井上 暗殺されたのは明治二十二年二月でした。

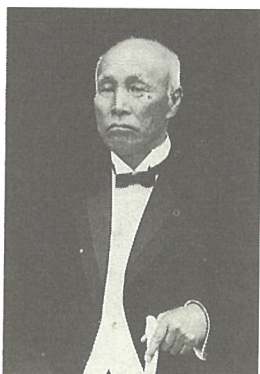
土倉庄三郎と古沢滋

河野 この座談会では、いつまでも新島が日本へ帰ってこれそうにないから(笑)、政治家の話が出たところで、政治家たちと新島のかかわりについて高久先生お願いします。もちろん日本へ帰ってからです。(笑)

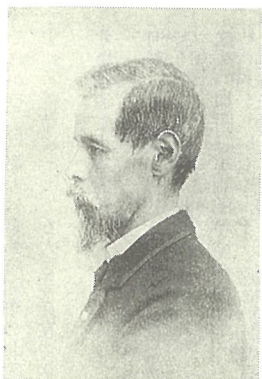
高久 河野さんが書いておられるから(「新島襄の大学設立運動」『同志社談叢』第九号)、あまり詳しくは申し上げませんが、吉野の土倉庄三郎とのかかわりがおもしろい。彼が一八八一(明治十四)年十月に古沢滋とともに新島を訪問しておりましたね。

河野 これが初対面でしょうね。その前に新島は古沢を知っていたのでしょうか。

高久 その点どうかわかりませんが、土倉



大隈重信



陸奥宗光

は大和の大山林地主で、立憲政党的のスポンサーであり、自身も立憲政党员です。板垣退助が洋行したとき旅費を出したと言われている。それともう一つ、新島が井上馨と最初に出会ったのはいつかよくわからないのですけれども、一八八八(明治二十一年)年三月に、神戸に滞在していた井上を、新島は土倉といっしょに訪ねている。これは土倉が井上と新島の橋渡しをしたのかなとちよつと想像しました。あくまで推測でありまして、特に根拠があるわけではありません。

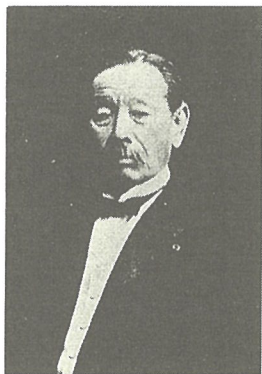
ただ、少し間接的な根拠としましては、井上馨が一八八八年から翌年にかけて、自治党というのをつくろうとする。これはむしろ青木周蔵とか陸奥宗光などが井上を立てて組織しようとする。十月に、自治研究会というのができるのです。この中に土倉が入っているという新聞記事があるのです。そういう面でも、井上との橋渡しを土倉がやっても不思議ではないと思います。

河野 そうすると、土倉と井上は同じグループにいたわけですね。

高久 土倉の動きは、まだよくわかっていない面がありますけれども。新島を一八八一年の十月に土倉と訪ねて来た古沢滋という人物もまだよくわかっていない。それから古沢の友人である小室信夫という人物ですが、これも今のところではよくわかっていないところがあります。

河野 古沢が土倉といっしょに新島を訪ねてきたのはなぜかわかりませんか。

高久 資料には「子供の教育のこと」と



井上馨



ニコライ・カサトキン

書かれていますけれども。

河野 それだつたら古沢と連れだつて来ることはないですね。古沢は新島とそれ以前から知りあつていたのでしょいか。

高久 その点もいまのところわかりません。この一八八一（明治十四）年の大阪の状況をちよつと申しますと、この年の九月に大阪に近畿自由党というものができます。さらに、古沢と土倉が新島を訪問した一カ月後に立憲政党ができるわけです。古沢は、その中心人物の一人です。それと、彼は卓抜な英語力を持つている人で、イギリスに留学しておりますし、キリスト教にも非常に深い関心を持つていたということが資料的にも明らかなので、もう少しこの古沢を追っていきますと、何かが出てくるのではないかと思ひます。

それから、京都では京都府知事の北垣国道ですね。新島にとつても大きい存在です。

北垣国道と山本覚馬

河野 その前の榎村正直知事と新島の関係とは、ずいぶん違いますね。

高久 榎村は専制的啓蒙知事といったイメージなんですけれども、北垣の場合は民間活力を生かすという、そういう違いがあると思ふのです。山本覚馬の弟子といひますか、田中源太郎、浜岡光哲、内貫甚三郎、大沢善助、それから雨森菊太郎もそうですけれども、そういう人物を北垣は非常にうまく使ひます。まあ山本の力もあるんでしょうけども。一八八二（明治十五）年にできました京都商工会議所はこのメンバーによつてつくられる。この人たちが北垣と党を形成します。

明治二十年代になりますと、反北垣派というのできました、その反北垣派の圧力もあつて、一八九二（明治二十五）年の段階で北垣は京都を去ることになる。末期の北垣府政の評価というのは非常に難しいだらうと思ひます。

河野 明治二十一年四月十二日の知恩院で

の大学設立大集会は、北垣の榎入れがなかったら、おそらく実現してはなかつたでしょう。そのことは資料に即してはつきりいえずそうです。その前後から最後に至るまで、新島と北垣の関係は非常に密接ですね。そういうことが北垣、山本ラインとでもいうべき人脈に対する批判になつて現われてきたのかも知れないと。まあ、疏水事業などずいぶん無理な施策をやつていきますけれども。

自治党の人たち

高久 確かに北垣と新島は、公私にわたつて密接だつたようです。それから細かなことは全部捨象して申しますけれども、三番目には井上馨の人脈。一応これを私は自治党人脈という言ひ方をしたいと思つているのですけれども、先ほども申し上げましたように、新島が井上と会ひますのが一八八八（明治二十一年）三月。そのあと新島が東京に行きまして、陸奥宗光の幹旋で井上馨に会う。陸奥とも新島は深い関係にあつて、陸奥が駐米公使になつて渡米するとき、わざわざ横浜まで見送りに行つています。

河野 陸奥は明治二十一年三月に京都へ新

島を訪ねてきてますね。

高久 ええ。二人が非常に歓談をしたということが資料にあります。おもしろいのは、この年の四月二十二日に、陸奥の周旋で東京の井上馨邸で明治専門学校設立に関する集會が開かれるのですが、集ったメンバーは、ほとんどその当時の自治党人脈と考えていいことです。つまり井上馨、陸奥宗光、野村靖、渋沢栄一、原六郎、益田孝、それから神奈川県知事の沖守固。私、この沖についてはあまりよく知らないのですが。

河野 たしか北垣と同じ藩の出身でしょう。だから北垣との関係かなと思ったりしているのです。

高久 私も北垣の紹介だと思っております。原六郎も北垣と関係があります。

それからこの自治党というのは、一八九〇（明治二十三年）年の帝国議會開設を前提にして、自由民権運動に対抗する形での一つの政治勢力というものをつくろうとして結成の動きが始つたものです。このとき井上グループが考えていたのが改進黨の抱き込みなんです。それで一八八八年七月十九日に、大隈邸で明治専門学校設立資金の寄附に関する相談

会が開かれます。その席で大隈が幾ら、井上が幾ら寄附するということが決まるわけなんです。そこに出席した人間のかなり多くの部分が自治党のメンバーで、新島はそういうグループに依拠しながら、東京で寄附を集めようとしていた。ただし、新島自身、そういう集りであることを知っていたかどうかはわかりません。

河野 そのときの寄附申込者と金額は「同志社大学設立の旨意」に記されていますが、新島としては大成功だったとみていいでしょう。

高久 このときの集會について、外務次官であつた青木周蔵が、駐米公使に赴任した陸奥に送つた手紙があるのです（『陸奥宗光関係文書』、集會から二カ月ほど後の九月に書いたものです）。

その手紙によると、七月十九日の集會の意図というのは、要するに大隈ははたして我が党を朋友視するかどうか大隈に尋ねることだったと。つまり自治党が、大隈は我々と一緒にやってくれるかどうかを確かめることだったというのです。実はこの七月十九日前後の時期というのは、井上の身辺が非常に忙しい

時期なんです。というのは、七月二十三日の段階で、当時の総理大臣の黒田清隆と井上馨と大隈が会談をいたしまして、井上が入閣することが固まるという、こういう時期なんです。ところが、そういった政党とのからみの問題は、新島自身が書いたものの中には見当たらない。さきほどの青木周蔵から陸奥宗光に送つた書簡によると、七月十九日の会合が明らかに政治の問題で開かれているわけで、井上馨を中心とする自治党グループが大隈を抱きこもうとしていたわけです。まア、政治の裏面史のようなことになりますけれども。

河野 自治党というのは出来たんですか。

高久 出来ませんでした。

河野 なぜ？

高久 自治党の研究はまだ十分進んでいないので、明らかでない部分がかんりありますが、大隈の抱き込みというのは、大隈を通じて改進黨の抱き込みということですけど、改進黨の抱き込み工作が失敗するといった問題があります。

井上馨の運動

高久 井上の自治党設立計画は、東京に基

盤をもたないことには駄目ですからね。実は京都も一つの基盤だったのです。彼は一八八八（明治二十一年）四月二十五日に同志社に来て、同志社の講堂で演説をしています。同じ年の四月から六月にかけて東海・近畿に遊説をやるんですが、京都もその中に入っているわけです。これには古沢滋も同行しています。

そうやって、近畿で申しますと、京都のグループ、大阪のグループ、滋賀のグループ、それから陸奥の地盤である和歌山、そういったグループをまとめていこうとする意図をもっていたようです。しかし、その意図どおりにはいきませんでした。

河野 新島と井上のつながりは、そういった井上らの一連の動きと関連づけて考えてみる必要が、どうもありそうですね。土倉庄三郎なども。

高久 自治党グループの中には土倉が入っているし、井上馨の評伝には徳富猪一郎の名前も出てきます。しかし、徳富はメンバーではないようです。

河野 京都ではどういう人物が井上の運動に加わるのですか。

高久 田中源太郎が少しのりかけていたようにですし、北垣国道もなんらかの後押しをしたのじゃないかと思うのです。

ただ、一八八九（明治二十二年）二月に田中源太郎、浜岡光哲、大沢善助、内貴甚三郎といった連中が集まって、京都公民会という政治結社をつくるのです。ところが、それは京都全体で千九百人という組織で、この組織全体を自治党に持つていくというのは無理だったようです。

それから、大隈が一八八九（明治二十二年）七月段階で条約改正に失敗する。そのことによって改進黨の勢力も弱まってくる。あれやこれやで自治党は出来なかった。それに井上の運動というのは、青木周蔵、陸奥宗光といった人に支えられた個人的なものでした。明治政府の農商務大臣が個人的につくった政党では、全国的規模で組織することはできないという問題もあつたように思います。

河野 新島にどこまで認識があつたかどうかはわかりませんが、政治団体とのかかわりという非常に興味ぶかいお話をありがとうございます。

宗教家たち

河野 紙教の関係で多くの人たちをあげていただくことはできそうにありませんが、新島と宗教家たちのかかわりはどうでしょうか。

北垣 最初にあげるとすれば、やはり箱館のニコライでしょう。しかし、その後、新島がニコライをどう見ていたか、またニコライが新島をどう見ていたかといったことは、あまりよくわからない。ただ、新島はロンドンでマレンズというイギリスの伝道界の大物のようですが、そのマレンズに会ったとき、ぜひロンドン・ミッシヨナリ・ソサエティから箱館に二人ぐらい宣教師を送ってくれませんか、あそこにはいまだにロシア正教の人がいて頑張っているのだと、明らかにニコライを指しているのですが、そんなことを言っている。二度目にイギリスへ行つたときには、ニコライを伝道上のライバルとして考えていたことがわかるのですね。

河野 むかしの義理は義理として……。
北垣 キリスト教会ということになると、ミッシヨナリーとの関係が非常に大きな問題

ですし、もう一つは、新島自身の弟子たちとの関係も出てきます。それ以外はやはり押川方義のような長老派系、あるいはリフオームド・ミッション系の人々の関係、したがって、

本田庸一だとか、植村正久だとか、そういう人々との関係はどうだったかという問題が出てくると思うのですが、そうなってくる今度は組合教会と一致教会の合併問題に新島がどう対応したかという問題も出てきます。

河野 今日座談会では収まりがつきそうにない。(笑)

北垣 私は小崎弘道という新島の大事な弟子の一人のことを思うのですけれども、小崎は組合と一致との合併問題がだめになったちばんの理由は新島の反対にあつたからだ、新島はあるとき卑怯だったと、先生である新島に対して、かなり厳しい批判的なことを書いています。小崎と新島との考え方の食い違い、これは新島にとつても小崎にとつてもつらかつたに違いないという印象を受けるのです。ところが新島は、小崎は自分の味方をしてくれているのだという意味のことを、N・G・クラークあての手紙に書いているのです。

河野 熊本バンドの連中には合併を進めようとする人が多かつたから、その中で小崎とは意志が通じるところがあつたのかもしれないね。

北垣 意志がわかりあつていながら反対の立場に立たざるを得ないとかね。合併問題のあとまもなく新島は死ぬのですが、小崎は臨終の場へ駆けつけているし、遺言の場にも立ちあう。そして葬式ときは重要な説教もするといったふうに、弟子としての義務を尽くしています。

河野 木村熊二との関係とか、キリスト教徒大親睦会での新島の役割だとか、東華学校設立からむ問題とかいろいろお話いただきたいことがあるのですが、また次の機会ということにして、今日はこのへんで終りにしたいと思います。周辺の人物からみた新島伝になつたようです。長時間ありがとうございました。

(一九九〇年十二月二十七日収録、於有終館担当理事室)

同志社談叢

第7号

論 文

- 新島襄の「私学」思想…………… 沖田行司
福土成豊と新島襄…………… 関 秀志
— 福土の新島宛書簡を中心として —
スカッダー家の人びと…………… 本井康博
— J・L・ジェーンズと熊本バンドをめぐって —

水沢における山崎為徳資料…………… 高橋光夫
— 水沢教会収蔵資料を中心に —

雲峰論補遺…………… 河野仁昭

同志社の近代建築(補遺)…………… 前 久夫
— 遺稿と資料 —

資 料

- 聖霊降臨記実 後編
同志社理事会議事録
大正八年十一月〜同十一年八月

一九八七年二月発行 頒価一〇〇〇円
取扱い 同志社収益事業課
(電話〇七五―二五一―三〇三七七八)